

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
生理心理学		必修 (心) 選択 (社.精)	2	2.3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
柁木 隆寿	B306	t.masaki	金曜日 14:40~16:40		
授業の目的・概要	<p>〈目的〉日常生活における様々な「心」に関する問題について、生理心理学の基礎的な知識を使用して説明することができる。私たちの「心」を生み出している脳や神経系の構造・機能について理解を深める。</p> <p>〈概要〉本講義では、「心」と「身体」の関係について学んでいく。私たちが普段当たり前に行っている様々な行動、そして、当たり前のように感じている感情・情動が、どのような生理学的メカニズムによって生起しているのかを解説する。また、「睡眠」、「食欲」、「ストレス」といった日常生活、特に健康に深く関連するテーマについての心理・生理学的知識の習得を目指す。</p> <p>授業方法としては、配布資料と課題による遠隔授業、そして同時双方向型の遠隔授業を行う。メール、Microsoft Teams を利用し、課題のフィードバックや受講者の意見交換の機会を設け、生理心理学の知識の定着を図る。</p>				
学習上の助言	毎回講義に出席し、積極的な態度で受講することを望む。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。				
参考書	生理心理学－脳のはたらきから見た心の世界 / 岡田隆 他 / サイエンス社 ピネル バイオサイコロジー 脳－心と行動の神経科学 / John P. J. Pinel / 西村書店				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	心理機能と脳活動の関連性について理解し、説明することができる。			心(2)	
②	生理心理学の観点から心身の健康について考察し、説明することができる。			社(2)、精(2)、心(2)	
③	生理心理学の応用について考察し、発案することができる。			心(2)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション、生理心理学とはどのような学問かを理解する。 フィードバック：メールにて課題提出後に実施 意見交換の機会：メールにて課題提出後に実施	印刷教材等による授業	ガイダンス資料と補助資料を使用し学習を進める。ガイダンス資料に記載された課題に取り組む。	3.5	
2	生理心理学の歴史、神経系の構造について学ぶ。 フィードバック：メールにて課題提出後に実施 意見交換の機会：メールにて課題提出後に実施	印刷教材等による授業	ガイダンス資料と補助資料を使用し学習を進める。ガイダンス資料に記載された課題に取り組む。	3.5	
3	神経細胞（ニューロン）の構造・機能について学ぶ。 フィードバック：メールにて課題提出後に実施 意見交換の機会：メールにて課題提出後に実施	印刷教材等による授業	ガイダンス資料と補助資料を使用し学習を進める。ガイダンス資料に記載された課題に取り組む。	3.5	
4	感覚 1：視覚、聴覚について学ぶ。 フィードバック：メールにて課題提出後に実施 意見交換の機会：メールにて課題提出後に実施	印刷教材等による授業	ガイダンス資料と補助資料を使用し学習を進める。ガイダンス資料に記載された課題に取り組む。	3.5	
5	感覚 2：体性感覚、味覚、嗅覚、感覚の統合について学ぶ。 フィードバック：メールにて課題提出後に実施 意見交換の機会：メールにて課題提出後に実施	印刷教材等による授業	ガイダンス資料と補助資料を使用し学習を進める。ガイダンス資料に記載された課題に取り組む。	3.5	
6	睡眠・リズム 1：脳波、睡眠段階について学ぶ。 フィードバック：メールにて課題提出後に実施 意見交換の機会：メールにて課題提出後に実施	印刷教材等による授業	ガイダンス資料と補助資料を使用し学習を進める。ガイダンス資料に記載された課題に取り組む。	3.5	
7	睡眠・リズム 2：サーカディアンリズム、生物時計について学ぶ。 フィードバック：メールにて課題提出後に実施 意見交換の機会：メールにて課題提出後に実施	印刷教材等による授業	ガイダンス資料と補助資料を使用し学習を進める。ガイダンス資料に記載された課題に取り組む。	3.5	
8	第1回目から7回目までの総括を行う。ストレス・情動 1：情動の種類、表情について学ぶ。	同時双方向型授業	ストレス・情動に關係する脳部位を配布資料をもとに整理する。ストレスと健康の關係性についてまとめ、自分や周囲の人の生活環境をストレスの観点から考察する。	3.5	
9	ストレス・情動 2：ストレッサーの種類、ストレス反応について学ぶ。	同時双方向型授業		3.5	
10	ストレス・情動 3：HPA系、ストレスと発達について学ぶ。	同時双方向型授業		3.5	

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科/旧カリキュラム】

11	欲求 1：食行動、体重調節について学ぶ。	同時双方向型授業	食行動に関係する身体・脳部位をまとめる。食行動に関する心理学的知見について、日常例を考えて整理する。	3.5				
12	欲求 2：視床下部、内分泌系について学ぶ。	同時双方向型授業		3.5				
13	学習・記憶 1：条件づけ、宣言的記憶、非宣言的記憶、健忘について学ぶ。	同時双方向型授業	学習・記憶に関係する脳部位を配布資料をもとに整理する。これまでの授業内容との関連性について整理する。	5				
14	学習・記憶 2：海馬、シナプス可塑性について学ぶ。	同時双方向型授業		5				
15	生理心理学の応用について学び、授業全体を総括する。	同時双方向型授業	シラバス・配付資料を熟読し、本講義の概要をまとめる。	8				
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照							
達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		60	0	0	0	40	100	
総合力指標	知識・技術力	40	0	0	0	20	60	
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	10	30	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10	
評価のポイント								
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法		
試験	①	✓	講義内容の理解度について、学期末に定期試験を実施し評価する。専門用語を正しく理解し、それを用いて日常例や各現象を説明できるようにしておく必要がある。脳部位の名称、機能を正しく暗記しておく必要もある。				学内掲示及びオフィスアワーにて総評を行う。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	印刷教材等による授業では、メールで提出された課題の内容を採点する。授業の理解度、そして各自が調べた内容の妥当性、問題発見能力を評価する。8回目からの同時双方向型の授業では、Teams 上でリアクションペーパーの提出を求め、その内容を採点する。リアクションペーパーには講義中に出される課題への解答、および講義内容に対する理解、発見、疑問などのコメントを記述することになる。内容の妥当性、問題発見能力を評価する。				講義中及びオフィスアワーにて総評を行う。メールや Microsoft Teams を利用して、個別にフィードバックを行う。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							

備 考

実践的授業の内容：各回において、生理心理学実験や調査を体験することがある。つまり、実際に生理指標や心理指標を測定し、分析する。その体験内容や、準備学習で調べてきた事項について簡単なディスカッションなどを行い、知識の定着を図る。
※学習課題・学習時間の欄に記載されている時間に加え、さらに 14 時間程度、フィードバックに基づいた課題の修正や、資料で紹介した書籍、インターネットホームページ、動画などの視聴を行い、内容の理解を深めること。

※Microsoft Teams を使って同時双方向型の遠隔授業を行います。課題ダウンロードや動画視聴などがありますので、通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意してください。

※今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスが変更される場合があります。